

株式会社 SUBARU

第94期定時株主総会



SUBARU

報告事項 1

第94期 事業報告

連結計算書類の報告の件

第94期 定時株主総会招集ご通知
全文 (Web)

22 ～ 89 ページ

第94期 定時株主総会招集ご通知
交付書面

22 ～ 46 ページ

第94期 定時株主総会招集ご通知
交付書面省略事項

1 ～ 43 ページ

2025年3月期 通期業績



	2024年3月期	2025年3月期	増 減
売上台数	97.6 万台	93.6 万台	△ 4.0 万台
売上収益	47,029 億円	46,858 億円	△ 172 億円
営業利益	4,682 億円	4,053 億円	△ 629 億円
税引前利益	5,326 億円	4,485 億円	△ 841 億円
親会社の所有者に帰属する 当期利益	3,851 億円	3,381 億円	△ 470 億円
為替レート	144 円/US\$	152 円/US\$	+9 円/US\$

事業部門別セグメント

自動車事業部門



生産台数



97.0

94.6

(単位：万台)

2.4%減
(前期比)

第93期

第94期

※台数は少数第1位未満四捨五入

売上台数



97.6

93.6

(単位：万台)

4.1%減
(前期比)

第93期

第94期

※台数は少数第1位未満四捨五入

自動車事業の売上収益

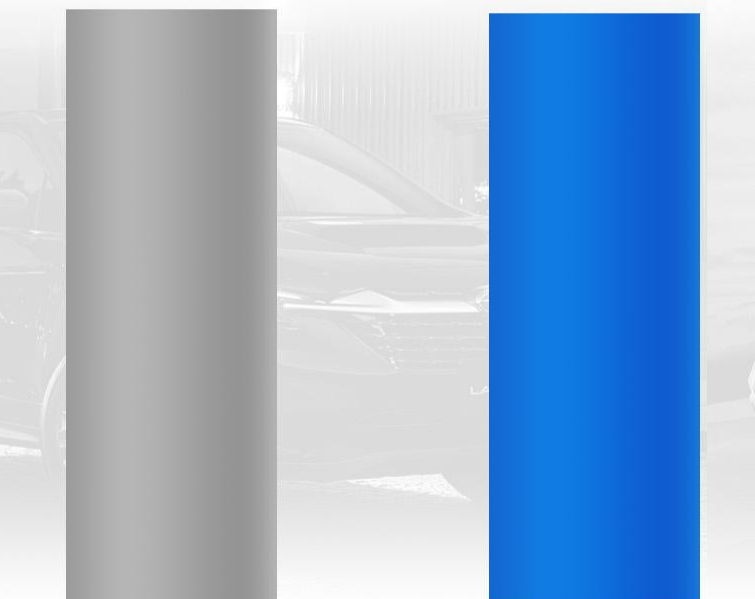


自動車事業の売上収益



45,936 45,690

(単位：億円)



第93期

第94期

0.5%減
(前期比)

※売上収益は億円未満四捨五入

セグメント利益



4,615



第93期

4,204



第94期

(単位：億円)

8.9%減
(前期比)

※セグメント利益は億円未満四捨五入

商品・技術



IIHS (道路安全保険協会)



IIHS (道路安全保険協会)



ソルテラ

2024年 安全性能評価

2年連続 最高評価

トップセイフティピックプラスを獲得

SUBARUが獲得したTSP+の累計：73
米国内ブランド別の累計獲得数として最多

商品・技術



IIHS (道路安全保険協会)



IIHS (道路安全保険協会)



フォレスター

2024年 安全性能評価

最高評価

トップセイフティピックプラスを獲得

「スモールSUV」 カテゴリーで最多
18年連続でTSP以上を獲得

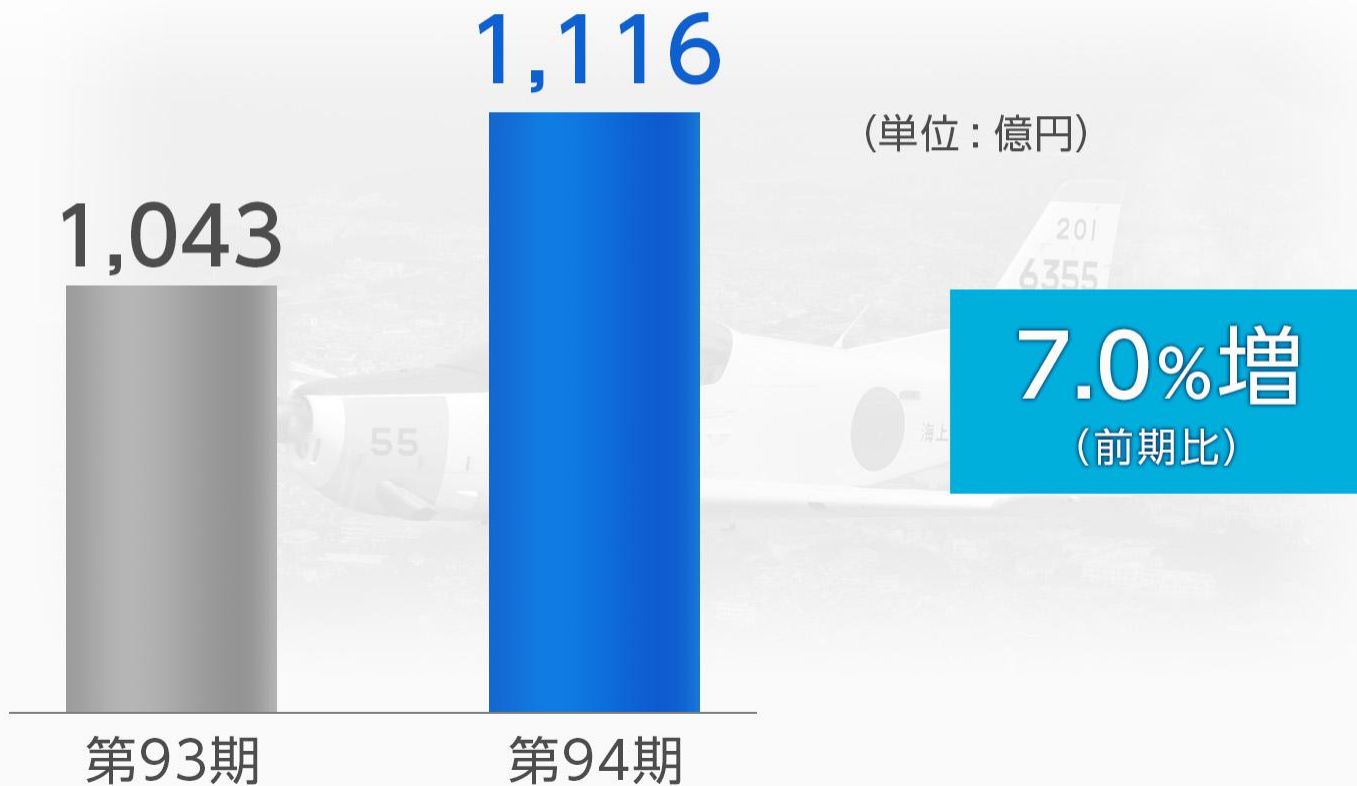
SUBARUが獲得したTSP+の累計：73
米国内ブランド別の累計獲得数として最多

事業部門別セグメント

航空宇宙事業部門



航空宇宙事業の売上収益



※売上収益は億円未満四捨五入

セグメント損失



27



第93期

△196



第94期

(単位：億円)

※セグメント利益は億円未満四捨五入

報告事項 2

第94期 事業報告

計算書類の報告の件

第94期 定時株主総会招集ご通知
全文 (Web)

90 ～ 99 ページ

第94期 定時株主総会招集ご通知
交付書面省略事項

44 ～ 53 ページ

対処すべき課題

第94期 定時株主総会招集ご通知
全文 (Web)・交付書面
26～32 ページ

大変革期の勝ち残りに向けて



モノづくり革新

価値づくり

「モノづくり」「価値づくり」で世界最先端を狙う

BEV^{※1} 開発とその知見を活かした
さらなる ICE系^{※2} 商品強化

※1：バッテリーEV

※2：ハイブリッド車・ガソリンエンジン車

商品ラインアップ



市場のニーズに合わせ **BEV^{※1} / ICE系^{※2}** それぞれのラインアップを充実
電動化移行期における **商品の柔軟性** を確保



新型「トレイルシーカー」
バッテリーEV



「フォレスター」
ストロング ハイブリッド搭載車



新型「アウトバック」
ガソリンエンジン車

※1：バッテリーEV ※2：ハイブリッド車・ガソリンエンジン車

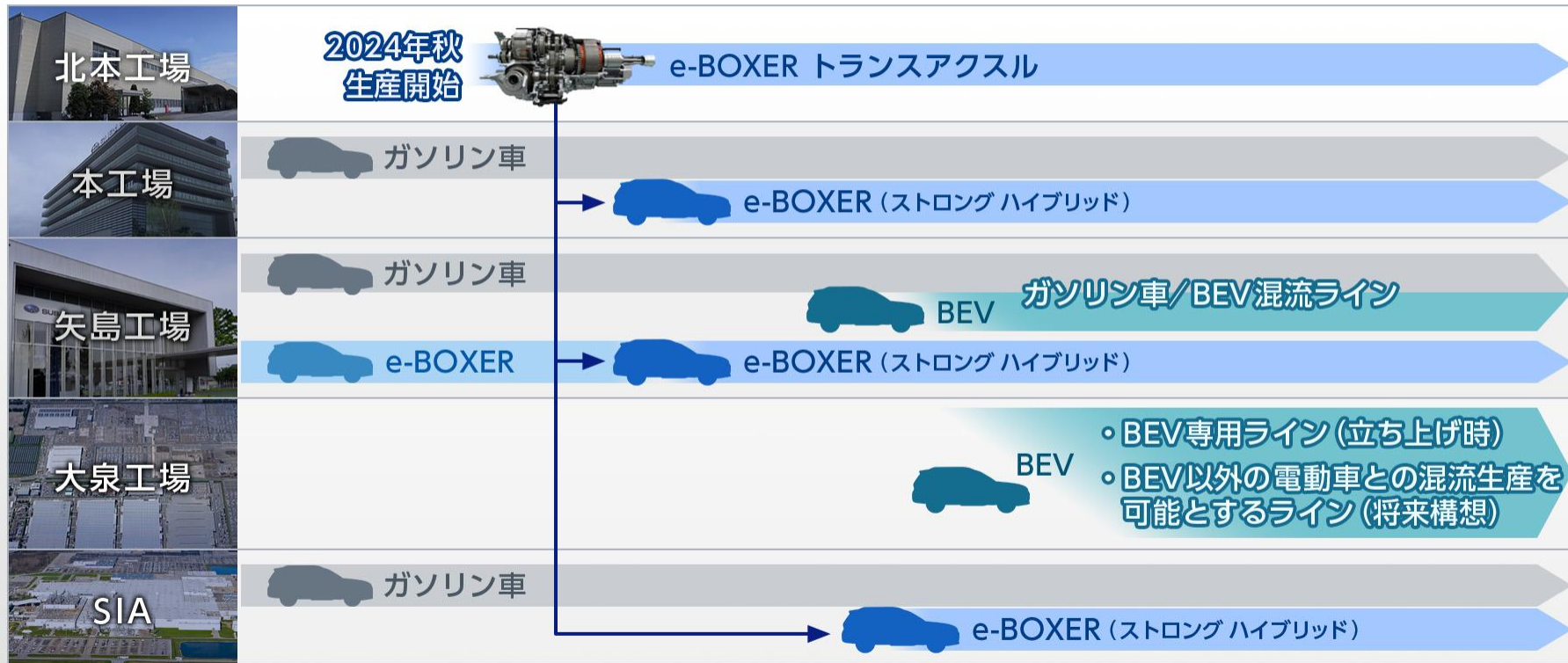
生産体制の再編計画



2024年

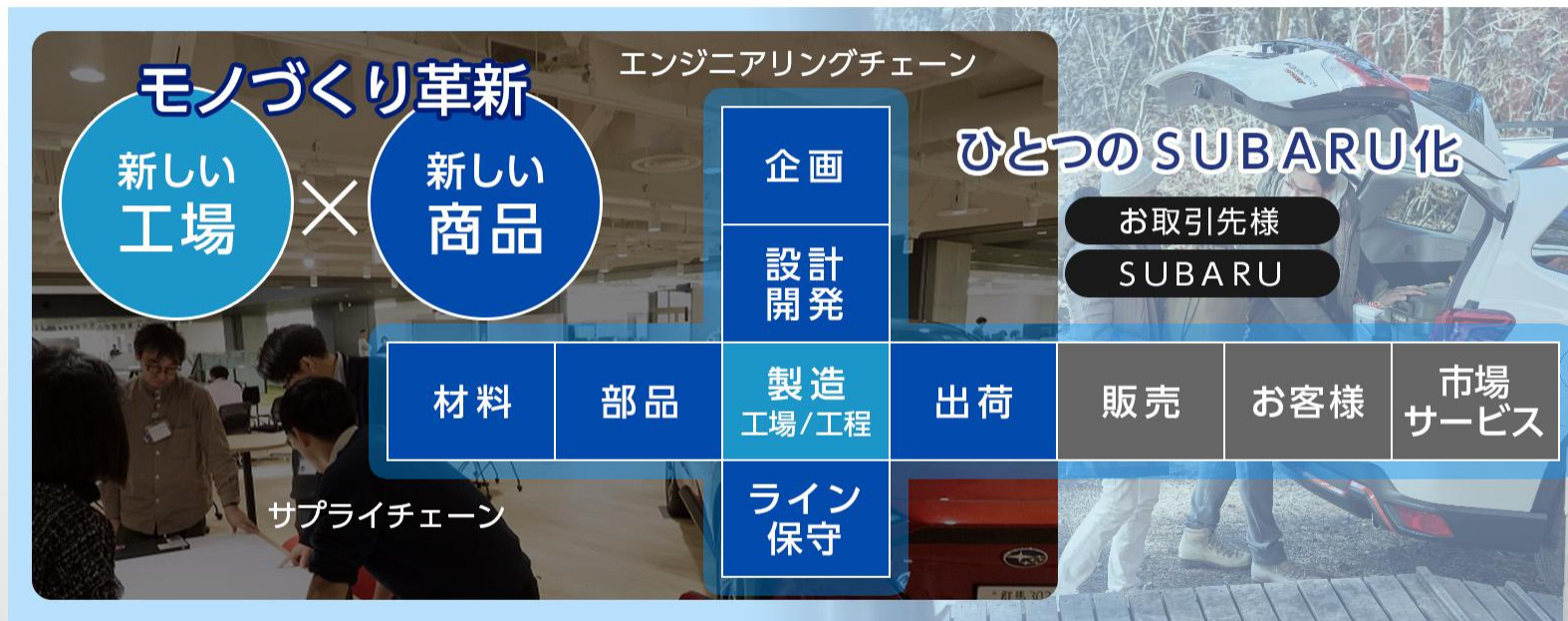
2025年

2027年以降



大泉新工場の段階的立ち上げによる合理的な生産・投資

モノづくり革新



「新しい工場」での「新しいクルマ」づくりを起点とした
“アジャイル”なモノづくり

モノづくり革新



新工場建設の自由度を活用した 生産・開発面のリードタイム短縮



大泉工場

群馬県



本工場



矢島工場

埼玉県



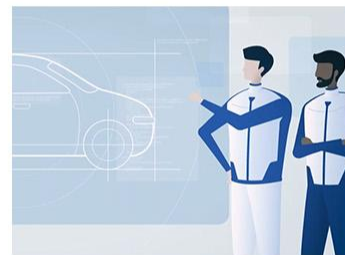
北本工場



生産ラインの
モジュール化や
柔軟なサブライン構築



従来得意としてきた
柔軟な混流生産の進化



車両構造・仕様の
シンプル化

ロケーションメリットの最大活用 や
開発・生産・物流の高効率化 による リードタイムの大幅な短縮

価値づくり



テクノロジーで実現する価値

安心と楽しさ

EV化による強みの強化

シームレス&ストレスフリー

待たせない
乗っていても／乗っていなくても

減価ゼロ

SUBARUならではのOTA
販売店と一体となった価値提案

「協業の深化」



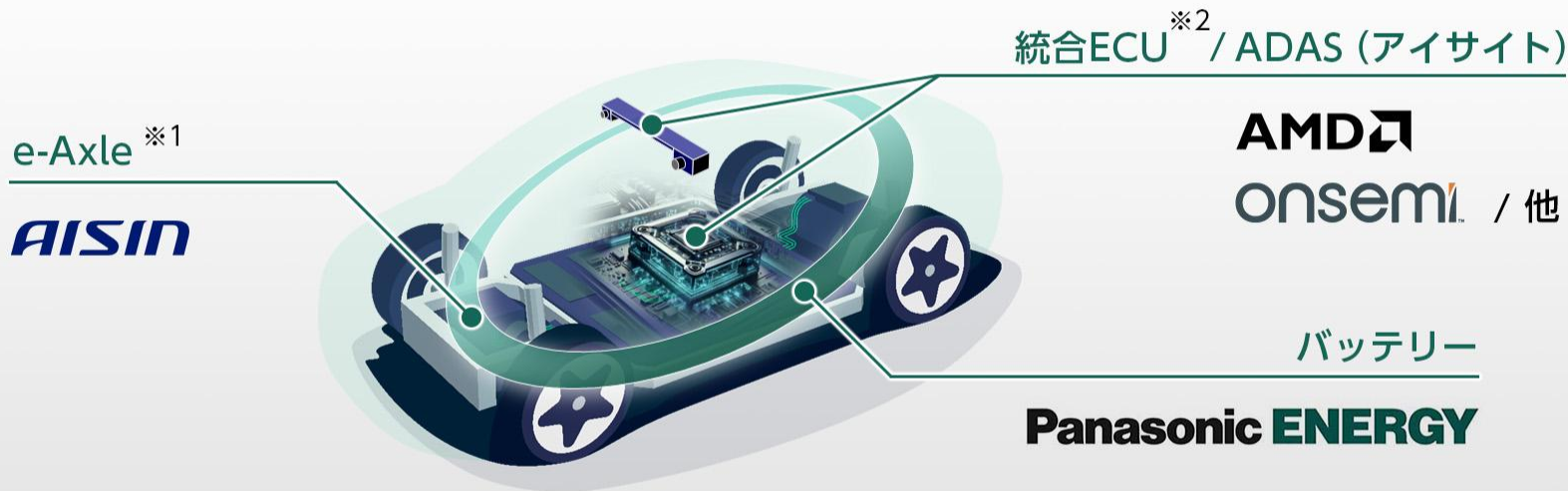
「知能化」

「協業の深化」と「知能化」を進め、
“安心と楽しさ”を更なる高みへ引き上げていく

価値づくり 協業の深化



各種協業を深化させ、「SUBARUらしいBEV」を実現



世界最先端の「安心と愉しさ」を実現

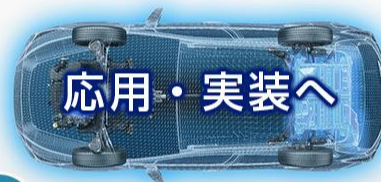
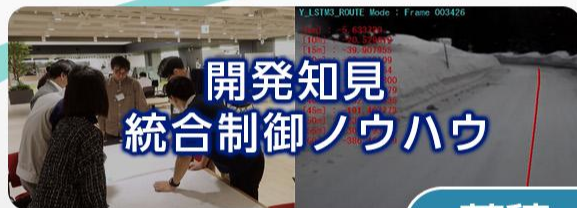
※1：バッテリーEVなどモーターを主動力とするクルマが「走る」ために必要な主要部品を1つにまとめ、パッケージ化したもの。主にギア、モーター、インバーターといった部品から構成される。

※2：電子制御ユニット

価値づくり 知能化

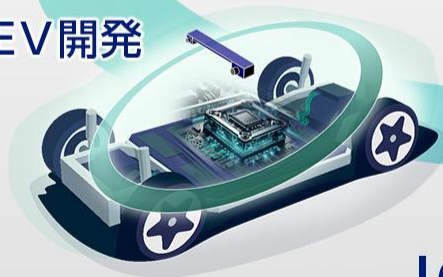


ICE系商品



蓄積・内製化

BEV開発



ICE系商品への実装を踏まえた
BEV開発知見や統合制御ノウハウの“蓄積”と“内製化”



モノづくり革新

価値づくり

「モノづくり」「価値づくり」で世界最先端を狙う

「お客様価値の最大化」
「業界高位の収益力」

人財づくり



「真の競争力をもった人・組織」を実現

個の成長

自律的なキャリアプランの形成を実現

組織の成長

現場力強化活動とDX推進により生産性向上

「つながりの強化」

さらなる成長を目指し、最重要項目に位置付け注力

自律した人財一人ひとりが持つ熱意や個性を最大限に活かし、
「ひとつのSUBARU」として
持続的に最大限の成果を創出してまいります。

2026年3月期 見通し



生産・売上台数

バッテリーEVの自社生産に向けた矢島工場の工事影響を織り込み
生産・売上台数ともに90万台を目指す

売上収益・利益

米国の関税対策の動向など不透明な状況が続いており
現時点における業績見通しは未定

株主還元



2025年3月期

2026年3月期(予想)

中間配当金	48 円/株	57 円/株
期末配当金	67 円/株	58 円/株
年間配当金	115 円/株	115 円/株
D O E*	3.5 %	3.5 %
総還元性向	25.1 %	40 % 以上

* DOEの算出は、「親会社の所有者に帰属する持分」から「その他の資本構成の要素」を除いています。

DOE = 年間配当総額 ÷ (親会社の所有者に帰属する持分－その他の資本の構成要素)



SUBARU